

令和2年度第7回伊予市行政評価委員会 会議録

日 時：令和2年9月30日（水）18時30分～20時00分

場 所：伊予市庁4階大会議室

出席者：妹尾克敏委員長、西田和眞副委員長、倉澤生雄委員、小倉揮代委員、篠崎加代委員、木本敦委員

事務局：未来づくり戦略室（皆川・岡井・曾我部）

傍聴者：なし

1 開会

会議の成立を確認した。

2 議事

（1）第6回会議録の確認

第6回委員会では、学校教育課所管の「幼稚園運営事業」を含む5つの事業を審議した。

会議録については、各委員において発言内容等に誤りがないか確認を行った後、伊予市ホームページへ記載する。

（2）外部評価結果の確認

（3）本委員会に対する提案、意見等

（4）次回の委員会日程

（5）その他

3 閉会

(2) 外部評価結果の確認

(事務局)

お手元に配布した「外部評価結果(案)」をご覧いただきたい。前回委員会までに、外部評価を行った28件の事務事業の概略、そして、委員各位の主な発言を要約し、記載している。また、本年度から、最終判断の上に部長等統括の欄を設け、委員会内での発言を掲載している。本日、確認いただいた後、体裁を整え、市長への答申としたい。

外部評価結果の確認の進め方について諮りたい。ひとつ目は、1事業ずつ、要約した意見を事務局で読み上げ、気になった部分や追加意見等があれば、発言いただく方法。ふたつ目は、委員会各回で審議した事業(5から7事業)毎で区切って、そのまとまりでご発言をいただく方法。どちらの方法で確認を進める方がよいか、意見をいただけたらと思う。

(委員長)

事務局から提案があった。1事業ずつ委員から意見をもらう方がよいか、各回に扱った事務事業をひと固まりにして意見をもらう方がよいか。どうだろうか。

(委員)

委員会各回でまとめてする方が分かりやすさはあるのだが、そうすると出された意見や修正などが交錯する可能性があるのではという懸念がある。

(委員)

懸念に対する配慮をしながら、委員会各回でまとめて実施した方がよい。

〔「賛成」と呼ぶ者あり〕

(委員長)

それでは、各回のまとまりで発言等をいただくこととする。

(事務局)

〔No. 1 救急医療対策事業から No. 5 地域活力創造事業までの5事業を読み上げる。〕

ここまでで、お気づきの点、御意見があれば発言をお願いしたい。

(委員)

部長等統括の欄が空白になっている事業がある。確かに委員会内ではコメントがなかった事業もあった。しかし、部長等がこの評価を受けてどう考えたか、どう思っているのかを記載していく方が今後の役に立つシートになる。委員会内でのコメントでなくてかまわないので、追記してもらいたい。

(委員長)

修正は可能か。

(事務局)

修正は可能である。委員会内で言及はなかったが、部長等に確認を依頼し、その内容を追記してもよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、その取り扱いとさせていただきます。

〔続いて、No. 6（水道）耐震化事業からNo. 10（介保）高齢者配食サービス事業までの5事業を読み上げる。〕

ここままで、お気づきの点、御意見があれば発言をお願いしたい。

〔指摘、追加意見なし。〕

〔続いて、No. 11（公下）社会資本整備総合交付金事業からNo. 17松くい虫枯損木伐倒駆除事業までの7事業を読み上げる。〕

ここままで、お気づきの点、御意見があれば発言をお願いしたい。

〔指摘、追加意見なし。〕

〔続いて、No. 18防疫等対策事業からNo. 23商工振興助成事業までの6事業を読み上げる。〕

ここままで、お気づきの点、御意見があれば発言をお願いしたい。

〔誤字の指摘あり。追加意見なし。〕

〔続いて、No. 24幼稚園運営事業からNo. 28唐川コミュニティセンター運営事業までの5事業を読み上げる。〕

ここままで、お気づきの点、ご意見があれば発言をお願いしたい。

(委員)

26 ページ。外部評価の5番目。せっかく水も電気も使えるのだから云々とあるが、No. 25 のふれあい館運営事業に対してのコメントではなかったか。異質な感じがする。

(事務局)

委員会内での発言は、No. 26 の社会体育事業運営事業に対してのものであった。確かにこの文章であると異質な感じがある。例えば、委員指摘の文章と後の文章を入れ替えるのはどうだろうか。

(委員長)

なるほど。2つの文章を前後入れ替えれば、違和感はなくなる。どうだろうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、その取り扱いとしていただきたい。

(委員)

全体をとおしての意見を。主な実施主体の欄が、未記入となっている事業がある。また、実施形態の欄に補助金等の金額を記入しているものと、記入がないものがある。行政評価シートの統一性がない。確認して統一をするべきである。

(委員長)

対応は可能か。

(事務局)

可能である。記載内容の統一をするよう対応したい。所管課に確認し、記入してもらおう。

(委員長)

それでは、その取り扱いをしていただきたい。

本日の確認資料について、御指摘の点は、修正を施し、改めて提示する。その際、お気づきの点があれば、事務局までお知らせ願いたい。以上で、確認を終える。

(3) 本委員会に対する提案、意見等

(事務局)

今年度の委員会は、第7期、任期2年の2年目となる。この2年をとおしての意見・感想、または本年度の行政評価委員会をとおしての意見・感想でもよい。各委員から発言いただきたい。

(委員)

早い2年間であった。一市民として参加して、日常生活において知らないことが多くあることが分かった。内容的には、普段生活している中で親しみのある事業もあれば、全く親しみのない事業や初めて知った事業があり、大変勉強になった。今後も行政評価で得た視点からいろいろなものを見ていきたい。

(委員)

今年度も審議の中にあっただが、団体に対する補助には課題がある。団体補助への意見には、批判的・懐疑的なものが多くあったと思う。事業に対する補助にシフトするよう検討してもらいたい。

また、2次判定の欄に、行政評価委員会に諮ることになった理由が記載されている。低評価によって諮られた事業は、委員会でも肯定的な意見はほとんど出ないが、最終判断で継続とされることが多い。一委員として非常に残念な気持ちになる。低評価によって諮られた事業は、2次判定の記載をゴシック等にして、行政内部だけでなく市民の目にも留まるようにしてもらいたい。

この2点は、「はじめに」で言及してもらいたい。

(委員)

評価シートは、年々改善されて見やすくなっている。また、私たちが見るヒントを補助シートや補足資料に提示する等、非常に分かりやすく毎年改善されている。

国の補助金等が出ていると、それに紐づけて事業名称を付けていることが多い。事業名称から得たイメージを膨らませて、資料を読み込んでいくのだが、この事業はハードに関することを扱っており、ソフトに関する事業は別にあるということがなかなか区別できない。イメージと実際の内容にずれが生じることが多々あり、未だに慣れない。

また、成果指標を無理やり設定していると感じる事業がある。成果指標から事業の成果がイメージできなかつたり、事業の効果が判定できなかつたりするため、改善が必要である。

先の委員も言及したが、私も団体の補助には課題があると思う。毎年支出しているから、受け取る側が当たり前のように考えてしまう状況を作っている。それぞれの団体には、職員の給料分は自分で稼げよと、実施する事業は市から補助をしたらと、積極的に指導していかないといけない。事業補助であって、団体の運営補助ではない。ますます伊予市の財政状況は厳しくなっていく。そこに回せるお金はないと思う。

最後に、廃止案件といっても、エアコンの設置が完了した、パソコンの配布が終了した等と事業自体が廃止になるものが多く、委員会の意見で廃止になるものは少ない。委員会では廃止という意見が出ても、行政の種々の事情により継続になってしまうものもある。なかなか難しいと思うが、「行政評価によって、これだけの節約ができ、その分を他の事業で新たに予算を使うことができた」という委員会の成果が伝わる工夫ができればよい。市民が食いつきやすい情報提供の仕組みづくりも必要である。行政の説明責任があることから、ホームページには毎回の資料や議事録の掲載をしている。ただ、読むだけで1時間以上かかる議事録をどれほどの人が読むだろうか。結果を見やすく、分かりやすく市民に提示してもらいたい。

(委員)

外部評価の意見を確認したが、ひとつの事業について、良いとする意見もあれば、その逆もある。本年度の意見は非常にバラエティに富んでいると感じた。「はじめに」には、各委員からそれぞれの立場や見解、経験等に基づいた意見をいただいたが、委員会としては敢えて一つの方向性にまとめていないと言及する方がよい。

低評価事業であっても、次年度も継続してしまうという大きな原因は、委託契約期間がまだ何年残っているからであったり、廃止解体を決定しても、それに係る予

算を確保できなかつたりするからである。

民間企業の会計を例に話をする。採算がとれなくなった店舗や施設があると、そこを取り壊すと赤字が大きく出るからといって、細々とやって赤字を少しでも抑えようとする経営者もいる。そのような恣意性を排除するために、減損会計を導入している。赤字の店舗を抱えて経営を続けていても、実際は採算がとれなくなっているのだから、本当は損であるという処理をしている。公の会計も、陳腐化した資産を取り壊すための費用は、必要なものとして盛り込んでおくべきである。

委託契約についても、民間であれば定期借地権で契約していても、あまりに赤字であれば違約金を払ってでも契約を打ち切る。行政においても同様の仕組みができれば、委託に係る手間が省けて、他の必要な事業に注力できるようになる。当然、受託者に損害を与えてはいけませんが、それを補填しても解約できる条項を委託契約書の中に入れるのも必要ではないか。

(委員)

行政評価委員になってからの2年間、インターネットを使って、多くの調べものをした。また、伊予市のホームページも多く閲覧した。送られてくる評価シートを見ても、ピンとこないことが多々あったが、自分が思ったことや感じたことを委員会では言って帰ろうという気持ちで毎回参加していた。

第6回のごみ処理事業の際にインターネットで調べものをするのとある動画サイトに行き着いた。割と分かりやすく、すごく面白い寸劇調の動画があった。伊予市のホームページでも、もっと動画を取り入れてみてはどうだろうか。トップページに伊予市の四季の移り変わりを感じる素敵な動画があるとよい。若い人の意見などを取り入れながら、テコ入れをしてもらいたい。

私自身、委員会に参加することで、マイナンバーカードを申請したり、ごみ分別アプリ「さんあ〜る」をインストールしたり、伊予市に移住者した人のお店に足を運んだり、いろいろなことに興味を持つことができ、経験と行動が広がったように思う。最近では、近所の人たちとサロンをやってみないかという話も出ており、これから計画をしていく。

行政評価委員には、一人でも多くの市民になってもらえるとよい。積極的なPRをしてもらいたい。

(委員長)

昨年度からスーパーバイザーとして所管部長に出席してもらい、事業の統括をしてもらっている。本年度、ある部長は所管課のいくつかの事業をあらかじめ原稿にまとめて、それを読んでいる感じがした。委員会の場で原稿を読んでもらっては困る。各委員との意見のやり取りや質問に対する受け答えを踏まえた上で、スーパーバイズしてもらわないと意味がない。この点は、所管部長に注文をつけたい。

次に、昨年度に引き続き、傍聴する市議会議員が固定されていた。良くも悪くも固定化してしまっている状況である。行政評価は、議会が最終的にチェックをするものであるため、議会の常任委員会が所管している事業が審議される回には、委員会として傍聴するなど、促してもらいたい。

また、各委員から意見があったとおり、補助金は、各論に見えるが、実は伊予市としての非常に重要な課題である。事業に対する補助金であるべきなのに、団体の運営補助金になってしまっている。補助金という響きが、受け取る側にそのような感じを抱かせてしまうのかもしれない。補助金というネーミングではなく、別の言い方を考える方がよいのかもしれない。

事業名称にもネーミングの課題がある。事業名称だけを見ても、何のことだか分からない。説明を聞いて、やっと事業内容を理解できることが多々あった。これは行政の悪弊である。誰にでも分かりやすく、伝わりやすい形に変えてもらいたい。

平成30年度から事務事業評価シートだけでなく、補助シートを添付するようになった。補助シートがあることで、事業の中身がよりリアルに伝わってくるようになった。この資料を作成するには、時間もかかるし、それなりにエネルギーも必要であると思われるが、資料を読む人の理解をサポートするため、今後も一層の充実を図るべきである。

最後に、今年度は任期2年の2年目であったため、委員各位がこなれた感じで行政評価を進めることができた。協力に感謝したい。

(4) 次回の委員会日程

日程の前に、今後の予定について簡単に説明を行う。本日の委員会での意見を取りまとめ、事務局で答申案を作成する。それをもって、委員各位に最終確認を行い、市長への答申とする。

答申を踏まえ、市長、副市長、教育長、部長級職員による経営者会議にて、最終判断を行い、議会への報告及び市民への公表を行うこととする。

次回の委員会では、先程説明した最終結果を報告するとともに、来年度の委員会で審議する事業抽出等を行いたい。日程は、令和2年1月若しくは2月に開催する予定である。改めて日程調整の連絡をさせていただく。